

八遠 13 特
2209
62

豊臣巴七編卷之二

繪本豊臣勲功記七編卷之二 目錄

信孝憤波阜城頭謀叛 屬 秀吉托之

岐阜城辺燒打の圖

勝家雪道之開きる圖

柴田勝豊全忠考死病床 屬 再圍岐阜

石田父子謀作柴田先陣 屬 勝家出軍





同 図 茶田遠謀

同 図 勝家出軍

秀吉攻滝川先臨龜山城 属 書臨峯城

龜山城合戦の図

龍川詮益即智の図

書と行一々峯の城と臨を圖

繪本豊后勳功紀七編卷之二

江戸 櫻澤堂山 編輯

信孝憤岐阜城頭謀叛色属秀吉扼之

去年の梅花ハ海不董り。今年の梅花ハ天不馥。然、而、亦

天正十年金く晚く明く天正十一年正月元日羽柴少将秀吉

少ハ寶寺より禁庭へ参内。先圖の所禮奏白られ、それ

より直地本國ある。播州姫路小澤らせあり。必不投あひ

當夜の召の尖刻なり。八時中より一里余あり、その夜の二日ハ

居家の年賀と懸られ、去、年、それ、忠、功、あり、緒、軍、士、残、り

た、一、恩、賞、せ、れ、ぬ、其、員、凡、八、百、六、十、四、人、あり、こ、の、二、日、ハ、近、國、旗

下の門へ、四月の寺社の禮と逢くれ、又、日ハ、願、國、諸、般、の、改、營、外

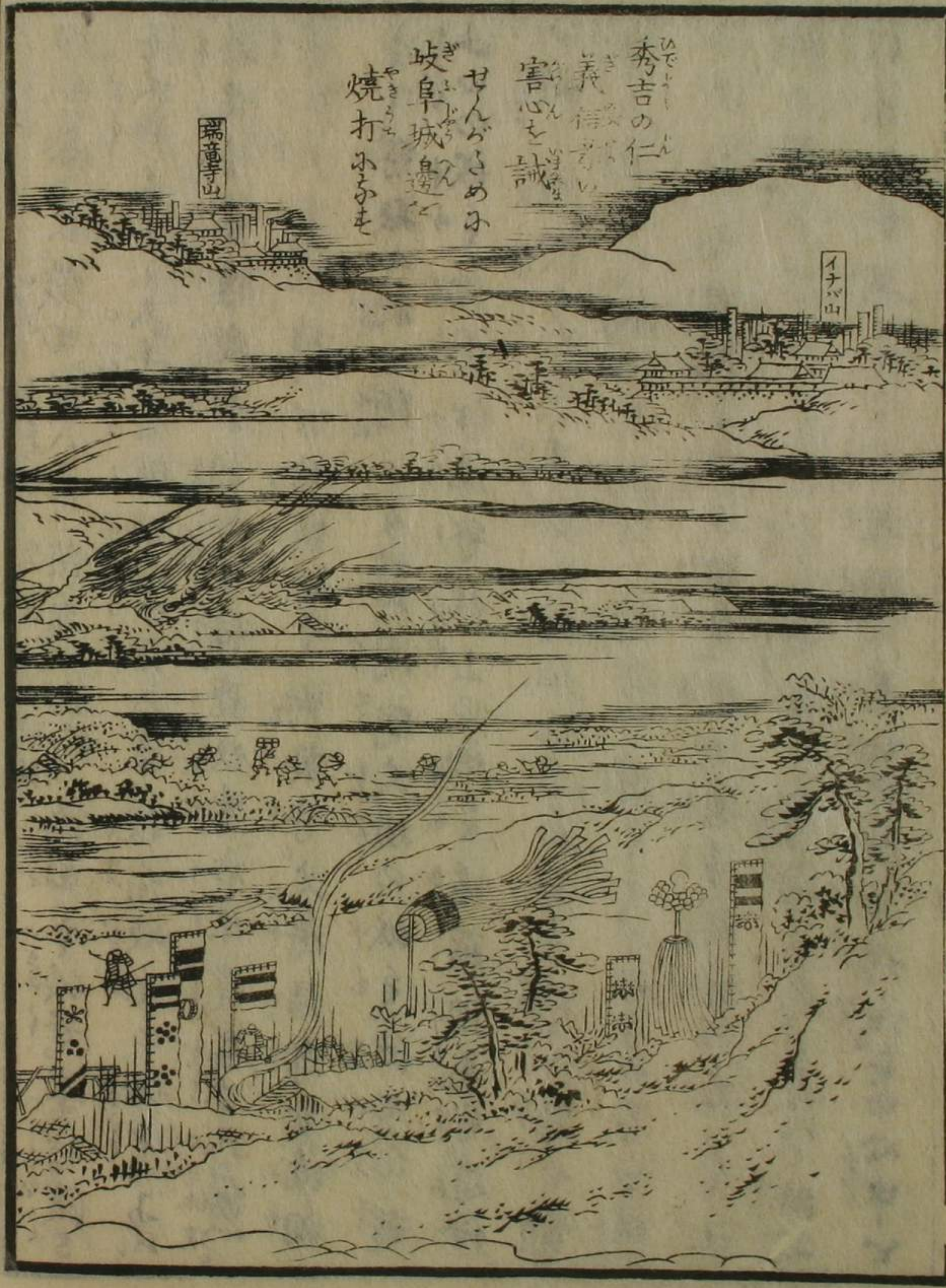


正ともし沙汰せられ其日の未小移る當天姫路と辞す夜と
 共小檜州路と馳む六日の申小迫き時分城州寶寺小居
 城あり初り安座しむひくる是一年の事い正月小ありといひ
 必給とめて諸人小知らしむるあり果しく其澄あり賊ヶ
 嶽の合戦あり柴田瀧川の滅亡六月の叙中々事休々
 是正月の用の忽したる事六日や々休小當れを元日より
 今日まで日夜まとも急休なく改勢の嚴しく急あること迫
 甚覺くぬ奔走ありとて迫士扈從へのもさらあり雜筆までも
 自品より秀吉當日の返景より初更小迫き刻頭まで諸士小
 酒宴と賜り々々發くも寝所小授りむひしが枕を高く目へ
 る小小鮮さあうう雷の傳く迫居とれ小警さささとうや七日い

發朝小泰内せられて白馬の視式早果々ね直地大津く
 出松し々安去の城々泰候なり幼君小獨りたてすなり新奉
 の賀と祝しすのせ長谷川茶田小對面して諸般の籌と
 高嶽縁々心小思ひよりまり々々小西泳九希石田佐吉小
 命て江州賊ヶ嶽の四邊小七箇の假寨と補理すべき事を
 詳細小稟會らるるす寶寺へ復返て信雄信孝柴田泧
 川四個の將へ使者と達て言行々々の所後見の公達老
 の門へ年始の式禮小泰候あり其上迫國諸士輩の奉
 賀とも受らるるさ誘ある小これらの禮と達れさるる其
 意と得さるる奉止あり決必返答せらるるに嚴しく稟を
 されらるる信雄御小へ柔弱の性あり病氣のよきを言補缺

より、ゆゑ信孝大に腹中。各之法師のさあしん平
 く伯父あり。秀吉と忠臣顔小。衆と礼ま何事ぞや。
 太と端懐不方あり。最既時節も暖氣不向。今この方
 より馳参り。羽柴と撃く意恨い散せん先速くと急使
 と達し。瀧川紫田不謀し合せ。助力の奉と言走ける。機
 會捉技し。新泰武士の自己倅も善不驕慢く。是地不
 謀叛を勅むるゆゑ不。信孝ます。茶食起を謀不軍を出
 さんとせし。家宰平田壹岐守。國分左渡守。峯信隆守。倅
 言と及し。練められも。侍従の勇と恃も。更ふとれと
 信を。まづ稲葉山の城中。國府佐渡守。國平。國本。土
 佐守貞龍と大將とて。二千餘騎と對凝守らせ。瑞龍寺山

の扶塞あり。織田新八郎信兼。本田を攻守。峯信隆を
 を大將とて。三千有餘騎率たる。根元岐阜の城中あり。
 森者玄蕃頭。稲葉刑部少輔。鹿伏元右京亮。是亦又左衛門。
 幸田秀右衛門倅。一万餘騎あり。對凝守。大將信孝と補相
 る。謀叛の相と頭し。同國大垣の城也。池田信輝。
 山口の城也。稲葉伊豫守。郡上の城也。遠藤佃馬守。遠藤
 の個に騎使あり。京都へ沿伸せられける。酒々秀右實
 寺不在して。速くも彼地へ情兵と遣す。これらの奉と録
 不搜らせ。準備大才調小機會。池田。遠藤。稲葉の方より。注
 伸の使者あり。けるゆゑ。今ハ微些も等閑る。今この方
 杉系と使者とて。信雄卿へ委細の録と訴。その心中と



秀吉の仁
義信を
害心を誠
せんがため
岐阜城邊
焼打ふを

瑞尊山

イナ山

奉聞小速小其眾と孔明をべきし。命せられねば。直ち小
 自方の緒軍と哀む。幼主へ忠志の個くし。丹羽氏府に備つ
 長秀。蜂屋出羽守頼隆。筒井大和入道順慶。其外合身
 長濃守秀長。中村孫平次一氏。堀久太郎秀政。福嶋加茂
 石川。仙石。石。などの數輩。その勢都合二万餘騎。これと兩隊
 小分列し。蜂屋。筒井と先陣とる。當儀ハ正月廿六日。
 寶寺と發軍せられ。再なるれとも安土へ逃へ。同月廿八日の
 暮濃州大垣小着陣せられ。摺行の兵小命し。岐阜。近邊
 を放火せり。國士輩の降を宥許。背叛と攻く。信孝の
 任。本城へ決して兵と向せ。池田。信輝。稻葉父子。遠藤
 佃馬守像の二隊小命し。瑞龍寺山の技寨と圍せ。舍身

秀長。丹羽長秀。蜂屋頼隆。等をりて。稲葉山の城を圍ませ。
 秀吉。こづ。總軍を率て。山をも拔べき。猛威を發し。方僅
 りの岐阜の本城を攻漏さ。き勢驍あまども。一砲半矢と
 故さざる。秀吉の本心に信孝。りつとも罪あるべし。是
 亡君の公達あれば。唯威を顯して。我慢心を扼ぎ。邪を捨。正
 小歸せり。め。幼君の補佐。さ。り。めんと。遠慮をりて。斯
 料。現つるものあり。然とも柴田。濃川が心小似まる。信孝
 か。急。如何なる。心と翻さ。互。駒馬をもて。越前と勢州。東
 名へ。急を報。救の兵をも。走。これ小因て。濃川一益。不
 時。小加勢。か。ま。其。準備を。執。認。が。せ。斥。候。を。出。して。行
 路の。虚。実。い。つ。小。と。窺。が。い。す。ら。小。秀。吉。か。ど。り。脱。虚。へ。ま。預

柴田勝家
江北に出軍
為んと道路の
雪を掃除
よきことむ



見立己二編卷之二



見立己二編卷之二

て東名の雁守として。高山左近。東山修亮。木下將監。羽根田長門守。生駒甚助。一柳市助。併小。七十餘騎を附率せさせ。勢列境の山林に。嚴しく道路を遮らせければ。謀急を長ぐる。左近將監遂小出勢せざりけり。叔亦紫の勝家も。岐年改事を。取と等しく。佐久間五番小傳令して。出軍の初と催しけまども。北國遠節雪深けまば。人馬を發せること能く。強猛短慮の紫。田勝家雨雪の遮小猶豫やまごまき。疾除穿つて進發せよと。数万の人扶と嚴しつけいさをも。休せむ道路の雪の丈餘に。満るを涂らせけまども。天竺羽柴を助くるや。例すくなき。大雪ふり。頃刻に。数尺降積て。壁と

此ら。是や其。天孫撥の準備小忽て。綿櫛零まると。輕ひ。白鳳冠と換んとして。虚空小翻まると。それかある小。數万の人。又。拂つとも。除まとも。水小圓掃むらうみ。雪の。ま。寒風も。最烈。うらなれ。凍吹。凍死を。もの。と。めて。道路と通ざる。障と得ざれば。何。経。勝家。氣。城。焦燥。詭。搦。小。搦。且。と。御。弓。も。是。も。後。しく。信孝の。加。勢。と。延。忍。せ。れ。ま。り。其。み。の。異。ある。羽。柴。の。諸。勢。へ。威。勢。を。示。す。く。廣。大。ゆ。り。も。危。や。改。車。機。と。目。茶。小。攻。刺。ま。ま。小。お。り。れ。ま。れ。信。孝。の。老。臣。岡。房。佐。渡。守。峯。信。濃。守。平。田。喜。波。守。森。谷。玄。蕃。頭。指。葉。刑。部。少。輔。倭。侍。集。少。く。大。將。信。孝。と。只。願。練。り。北。國。の。雪。の。洶。ゆる。頃。まで。担。ぎ。和。腹。と。遠。き。を。ま。る。春

關原の戦い。信孝の復讐。柴田出陣。秀吉の謀略。諸將の練兵。信孝の死。秀吉の勝利。関原の戦い。信孝の復讐。柴田出陣。秀吉の謀略。諸將の練兵。信孝の死。秀吉の勝利。

信孝の復讐。柴田出陣。秀吉の謀略。諸將の練兵。信孝の死。秀吉の勝利。関原の戦い。信孝の復讐。柴田出陣。秀吉の謀略。諸將の練兵。信孝の死。秀吉の勝利。

丹も勝豊が爾在る。明と發する所謂を詳し頼且に
 這遭秀吉收阜攻の事小至りて。其父勝家長演境へ
 使者と遣えし。信孝爾助方まき旨と。東越まとい
 どの既小秀吉の勅め周る。幼弱所自方とありしに
 徒病身尔事托す。何方ても加勢と出さば。心中軍小預
 ひろるや。我一身ともし忠孝の二と命あるらん。輝驗ふく
 成就しがらん信あり。若と違んとまき。响ハ父の邪惡とい
 小せん君の命小随し。忠義と命まき。响ハ現在在表父
 敵對之罪。佛家小説ける。不遂の一あり。如く我今羽柴小
 厲し。誓と義約をせしむ。柴田の家名に違ぶきものを。忠も
 孝も命も命まき。軍の發る其以希小。死せん中如づらば

と自身強きを。命せしむ。喜且小も亦殊勝なり。享年
 廿六歳中し。頃ハ天正六年二月廿八日ありとぞ。家臣の愁
 傷のよをりわく。急難工小帆と棄をれ。周山中小炬と
 失し。少る意地し。悲歎といし。も還らざれば。まづ死に
 寶寺へ預伸し。秀吉大に歎惜せし。這上ハ此城
 勢の登りざらる。瀬川一益と一盛國と。退還人。諸方の
 隊備在番勢のし。小も。覺束なけし。まづ近國へ廻交と
 招集わん。と食そけく。徇けるも。命小懸し。し
 近國より。並聚る個し。高山右近太史。瀧川伯耆守。
 降屋出羽守。中川瀨玄湯。山園次濃守。長尾与一。羽
 根田長門守。堀久太尉。筒井順慶。小川佐渡守。赤松

次席。同孫三席。伊藤掃部助。兼山修理亮。大垣金右衛門。山内播磨守。より勘解由左衛門尉。同將監。黒田官兵務。同甚右衛門。秀吉大不喜悦せられ。先鋒隊の勢とつゞく。政阜の城と壓守させんと。池田勝入彦。遠藤但馬守。稲葉伊豫入道。小指揮と傳へ。舍身兵濃も秀吉と大將とつゞく。二好孫七郎。亦下將監。赤松次郎。二万除騎と當副られ。糧別へこそ向させられ。是信孝が和平あせしん。亦心小あせさる。新泰ありくる。畠田。杉原。谷多んと小哄誘され。若び敵對相懸とくるゆゑ。秀吉斯ハ料ひつるあり。然れども斜軍。不足ありとや思されん。森武藏守長一。是ハ森武藏守長一。是ハ森武藏守長一。是ハ森武藏守長一。筒井順慶。山内

猪右衛門。大垣金右衛門。倭が。七千餘騎と當行られし。然る小待。後信孝ハ。己弟のめく兵士と。之派小對。凝守らせ。進軍遅しと待愈々。進軍ハ隊位と又派小領也。稲葉山ハ。森武藏守。遠藤但馬守を先隊とす。池田勝入彦。亦下將監。山内播磨守。右衛門。三好孫七郎。二の隊とす。政阜の城ハ。大將。羽柴。兵濃守。赤松次郎。稲葉伊豫入道。傳。一隊と向させ。瑞意寺山の杖寨ハ。筒井順慶。大垣金右衛門。這勢都合二万七千有除騎も。隊位嚴重小推投圍のみ。敵と合戦せさせられ。丹も秀吉が心中ハ。滝川紫田を攻果せし。後。是。那。小。屋。股。させんと。意。あれ。兵。守。一。接。小。斯。ハ。一。つ。然。る。小。城。中。大。將。の。指。揮。を。も。待。む。只。一。接。小。

道教さんぞと。本戸と聞て撃て出ると。進兵へ退屈せし
 穢會ゆふより。明氣をと喊と合せ又と更へて戦ひけれ
 ども。秀長令と堅中へ。諸陣と動りたりたれば。遂に合戦
 体く小なり。然ども城兵と撃てると二十九人進兵もすこ
 四十人撃てると。這後へ這ふ戦挑す。要心堅固小隊列
 たり。これ不同く城中あり。諸老長心をそしり。敵と破るの
 計議とありす。秀吉當城兵向をばしり。直地小勢別へ發
 向あり。澗川と戦中ありあり。備羽柴勢強し。一益敗軍
 するものあり。當城より。狂磯あらん。今の微勢と撃てんと
 するも。進兵の隊は堅し。益謀の合戦なりが。只這上
 北國へ駒馬ととり。急と若菜田が助勢と乞く。後意強く

戦せんを肝要あれと。所地花脚と走らせ。勝家京行
 くる中へ。這道秀吉發軍し。勢州の澗川と攻る小臨み
 岐阜等の二城と。嚴しく堅守ありけるが。其勢凡に万も
 ありぬ。然ども敵と戦せん。秀吉素名と戦りもせ。諸
 隊と合せ。當城と攻臨さん。結構とぞ賞也。其期小迄を
 ざる。若小。敵ひの勢と賜ふ。必定勝利とせられ。是非小出馬
 一玉とせし。とぞ告りたる。勝家聆り思ふや。既小先達
 ても。信孝叔兵と乞く。加勢あるまじく。かひひしうとも。雪小
 道路と塞られ。残念ある。黙止し。然る小再度の使者
 あり。今へ猶遠まじき小あし。出軍せんと。蚤所。蕪下
 緒將へ。廻文とせ。徇統し。加越。越の軍勢と。頻り小催伝

せられぬ。是は不慮に旗下の軍勢。越前北の庄小集合
し。後一かりたる事どもあり。

柴田父子謀化柴田先陣 属勝家出軍

龍ハ鱗隙の蟲不困。御ハ身中の虫不悩む。若小羽柴
秀吉ハ寛勇大智ありと。今之方の敵小對し。屢
苦戦小向ふこと。多くハ生涯無二あり。然るに北國七
州の藩鎮。柴田修理進勝家ハ。旗下の諸將と召集む。
其ハ中亦も独弱七尾の城主。柴田孫。日府利長ハ。柴田ハ回
文と視ると等し。越前府中の城主。小赴。父利家小對面
し。這遭の出馬と高譚多さんと。府中の城主。到られし。然
るに小柴田又た湯門利家ハ。快より柴田勝家。偏執不忠の

心を悟と憤ること。我遭ふまは。病氣と稱して大半ハその
僥倖小。應ぜざりしが。這遭ハ別て大切あれ。長連勢と深
慮を譚し。機密を議して在けるところへ。子息利長来着
せし。親子主從を困と當家の真寢を商譚せし。响
小孫四郎又小向ハ俺們預ての討略も。こ是れぞ。掌て想遠
せ。今日小到るといへども。北國ハ一國柴田ハ属を。し
るに。今猶當家の。其僥倖小。應ぜざん。勝家疑心を生む
べし。遠疑ひを避ん。乃息一個招小。懸ト。狐疑の難と
防ぎ。小さん。又ハ不期延止病氣と稱して在ま。勝家
屢僥倖。おさ。御出馬。宜らね。後陣小加。緩
と。御出陣。ま。次小勝家。何ぞ。狐疑を。備這遭の軍相

豊臣記七巻之二



府中の城
中不於
前田父子
長連龍
遠謀と
談む

豊臣記七巻之二



敗心ありんと。察し玉ふ。乃子心累か。急病ありと
号發て決退軍し。乃子い是又と遠ひ相業と懸
文も厚く。いれ。縦令女と文多とも。後の憂ふ。いも多は。
是長久の計議あらんと。憚る。進多。稟されける。又存あり
も大い感。ト故。諫言。お徹し。然ら。某方。片時も迷
く。此の。念ふ。悉看。あり。柴田。疑心。と脱。られ。只。願。先陣の
事を。望。こ。て。敵の。蹀躞。と。よく。察量。快。く。又。へ。注。伸。せ。よ。と。長
連。新。り。一。齋。ふ。異。見。を。謀。示。し。け。り。け。り。利。長。原。来。大。志。の。人
ゆ。名。又。師。の。教。と。亦。も。志。を。別。辞。を。告。て。府。中。を。辞。出。北。の。庄
へ。ぞ。赴。き。ける。城。ふ。前。田。家の。又。子。君。長。う。る。こと。賢。か。り。次
他。年。天。下。の。一。臘。と。成。て。加。越。三。國。ふ。百。七。石。斛。と。領。受。せ。り。

時小天下十年二月上。辭。柴田修理進勝家。この般。こ。是
冰出馬。一。羽。柴。と。有。互。の。決。戦。を。一。雄。を。一。舉。小。定。む。一
と。折。瀬。す。で。の。行。路。の。氷。雪。と。蕭。揮。せ。せ。旗。下。の。諸。將。の。泰
着。次。第。進。發。を。一。と。准。備。と。整。へ。待。小。時。日。あ。く。亦。田。孫
に。郎。利。長。第。一。番。小。北。の。庄。へ。引。退。る。も。機。會。り。二。月。上
已。る。れ。ば。這。祝。賀。と。出。られ。る。も。勝。家。が。欽。悦。を。さ。す。べ
帝。と。勤。り。て。欽。待。り。時。利。長。辭。辯。と。正。ふ。り。て。這。般。逆。は。一
河。出。陣。の。報。河。回。文。ふ。より。承。知。せ。り。發。所。父。子。輩。參。儀
い。し。軍。の。商。議。も。承。所。又。愚。父。利。家。も。逆。を。ゆる。が。軍
慮。と。述。ふ。存。む。る。こ。と。ろ。不。意。病。氣。當。發。り。召。小。慮。む。る
律。徒。を。心。殘。念。こ。れ。小。過。ぐ。る。是。小。同。く。身。不。肖。な。れ。ども

怖くハ乃夫へ先陣命属らるる。最亦存トシ。愚父ハ
病氣全快次第。蚕ノ府中ト進登イ。後陣へ入り。其
馳加ちるべく存シ。其節然と云。小。清指揮ト被
シ。舌花さるる。流水の。淀ま。海小帰。ま。か。如く。決
と弾。く。演ける。みぞ。勝家。ナ。く。驍。歡。び。狐。疑。と。懐。り。で
これ。以。勞。ら。ひ。然。く。存。ハ。辞。儀。と。華。め。大。張。親。父。利。家。の。雄
氣。と。仰。持。し。う。と。看。え。く。驗。み。く。雄。く。し。き。舉。止。り。弱。年
おも。似。ぞ。先。陣。と。不。望。志。感。む。く。猶。餘。り。あり。莫。小。虎。豹
ハ。墮。胎。停。み。く。牛。と。食。小。の。氣。あり。と。同。弟。利。長。の。事。る。ん
ぬ。べ。後。來。援。念。く。思。ひ。な。れ。不。信。せ。先。陣。の。副。將
の。任。と。力。令。て。む。な。れ。最。も。這。遭。先。駈。の。義。ハ。既。先。達。て。猶。子

佐久間云蕃小命ト云。盛改と借小彩骨ト云。卷と天下
ふ達と云。隔心もる。看えたる。利長。小安途ト云。
大將の指揮と待在。一兩日と經る。柴田。小属。と
小國武士。次取北庄。小馳。着。し。ね。先。少。推。平。改。阜
の。危。急。と。救。え。んと。二月。又。日。の。曉。未。小。北。庄。へ。奮。發。る。先
陣。ハ。是。加。州。金。澤。の。城。を。佐。久。間。云。蕃。元。盛。改。其。勢。又。十。有
餘。人。副。將。ハ。能。州。七。尾。の。城。を。柴。田。孫。に。弟。利。長。其。勢。四。千
三百。餘。人。ず。く。柴。田。が。幕。下。より。淺。井。右。兵。衛。則。改。又。百。餘。人
宿。屋。七。左。衛。兼。清。又。百。有。餘。人。これ。ハ。先。隊。ト。列。して。都。合
一。万。三。百。餘。騎。二。陣。ハ。越。前。東。江。の。城。を。安。井。左。近。家。清。属
ま。る。勢。ハ。二。千。餘。騎。加。州。行。幸。塚。の。城主。徳。山。五。兵。衛。勝。宗。

三千餘騎。これ小加たる。旗本列少。水野惣兵衛。國春。安
 房。孫兵衛。秀任。西勢。合せし。七百餘騎。第一陣。ハ。越前
 勝山の城主。柴田三左衛門。勝改。同舍弟。源六郎。実改。其勢
 二千。又。百餘騎。ハ。陣ハ。加藤。虎山の城主。系。彦二。弟。元治。二千
 餘騎。越中。末盛の城主。不破。彦三。元續。これも。同。二。千
 餘騎。其外。佐久間。玄蕃。右兵衛。加州。大聖。寺の城主。拜。御
 五。左。衛。門。久。重。二。千。餘。騎。これ。小。加。たる。旗。本。列。ハ。水。野。新。七。信
 義。ハ。百。餘。騎。中。五。陣。ハ。所。地。總。大。將。柴。田。修。理
 進。進。作。勝。家。五。千。餘。騎。中。央。小。隊。伍。と。主。目。ハ。先。隊
 小。川。紫。田。持。六。勝。久。三。千。餘。人。後。隊。ハ。毛。受。勝。助。家。照。同
 久。右。衛。門。照。景。松。本。基。公。湯。則。高。中。村。兵。衛。門。這。後。の。勢。兵

二千。又。百。騎。後。陣。ハ。越。中。富。山。の。城。主。佐。々。陸。奥。守。成。政。一。万
 三。千。有。餘。人。越。前。大。野。の。城。主。金。森。五。郎。八。長。親。四。千。餘。騎。兵
 糧。小。谷。武。と。領。し。し。り。總。勢。都。合。六。万。餘。騎。小。道。ひ。け。れ。ば。甲
 冑。の。鏢。將。旗。旗。の。風。御。百。色。雲。の。千。筋。万。蛇。と。智。す。る。が。像。く。
 海。小。輝。き。山。小。彌。り。巍。々。然。と。し。て。推。察。す。其。外。加。越。の。國。中
 小。澤。寔。な。せ。る。輩。の。馳。加。たる。門。こ。小。ハ。青。木。勘。七。原。勘
 兵。衛。長。井。五。郎。左。衛。門。寺。嶋。猪。兵。衛。鷲。見。源。四。郎。磯。貝。九。郎。佐
 毛。屋。新。内。傳。遠。時。あ。り。て。一。身。の。達。ま。さ。き。期。ハ。あ。る。ま。ど。け
 五。バ。良。敵。撃。て。高。名。せ。ん。と。驍。進。で。相。從。ふ。諸。亦。前。田。利。家。ハ
 病。氣。漸。く。愈。り。と。て。又。日。後。ま。さ。全。ト。三。月。十。日。又。千。七。百
 餘。人。を。率。し。道。路。を。隔。て。後。陣。小。驅。行。北。庄。の。留。守。官。小。ハ。



柴田勝家大
軍を率ゝ江
北の地へ出軍



嶋若狹守祐全。柴田孫方出陣。勝次中村久右衛門。同文新
同一露齋。其代譜代の勇士輩。五子餘人と留置。老幼男女
を扶助させしむ。然れども柴田の先陣佐久間玄蕃元盛
政ハ素より伊賀守勝孝と不和ありて。屢讎恨ありけり
バ。遠慮の軍細手長濱の城を素破り。怨を滅しあんりの
と憤然として追むところ。早くも勝豊為死して。兵
道の遁走しければ。盛政勇氣の張撓めども。将なき城ハ攻
やむし。是吉兆と聽りのらふ。遠慮の合戦ハ勝ありと
奮然として驍勇なし。道路の雪を掃除して。木芽嶺を
打越て。國境より四里半を經て。柳瀬の驛ハ出張也。且又
前田利長ハ弱年多きども。勇智ヲ長く出陣の威を

顯さんと。柳瀬近邊民家と除き。山林ハ掃除せしむ。と
火と放ちて。燒拂ひ。軌則と云く陣。一と云く大張
大將の器量見せられ。威风宛も凛々しき。これハ國々
長濱の城代。神谷本下。徳永保。預て期し。しる緯
より。これハ柴田ハ大軍出陣のしる。馳馬馳き。秀吉ハ
在陣する。勢州へこそ。後陣し。しる。

秀吉攻滝川元福龜山城 属書臨軍城

天より。敗敗と持つ。人より賢愚。邪正と有つ。邪より。思ふ
ハ。詔を識り。まとも。敗れ。まとも。賢正の輩。ふかい
し。事。遂。小。城。なる。事。實。小。天。の。勢。し。む。こと。あり。る。是
小。龍。川。左。近。將。監。一。益。ハ。柴。田。孫。方。と。心。を。協。せ。羽。柴。秀。吉。と

滅さんと。密に謀界と通しつゝも。信孝も謀殺と進め秀吉
足と撃んとしつゝ。濃州境に馳進す。勝家へ江北より發動
し。一益の後面より撃て出づ。二方より羽柴と接戦し不秀
吉いふ智勇ありとも。進退し不窮す。秀吉も不
撃つべ。勝家へ疲勞し困し。層とまゝ不逞とぞ。自方と
ちのひー。這方より。不意に進撃するもの多ぶ。唯一戦し
鏖みせん。然あらん。晴の信孝へ。武將の位階を遣ひしかせ。
我除快槍と極し。織田家の後見執も易変さず。天个
い。是我手裡にあり。先迎撃の準備とるさんと。まゝ山
城あり。駿川に九郎。佐治新助。鶴殿。森官。関大藏。助。保
三千餘騎。同く。峯の城中あり。瀬川。儀太。文。治。益。と。おし

白子六郎大將。官地九内。青地。領母。倭。二千餘騎。素名の城
あり。一益とつら。軍城し。長嶋城に据あり。保八と大將
あり。素二角と副將とせり。諸將各あり。日登。又。府。左。門。
谷。侍。忠。右。衛。門。山。路。美。三。被。此。合。せ。七。千。餘。騎。矢。流。兵。糧。
多く準備し。待て。後。こ。を。わ。れ。羽。柴。流。兵。糧。に。任。せ。お
秀吉。既。不。收。兵。一。層。守。り。合。秀。長。と。大。將。と
あり。二。万。七。千。有。餘。騎。あり。三。城。と。康。重。固。め。せ。益。二。万。一。千。
有。余。騎。と。三。隊。不。願。ち。も。勢。及。の。地。不。向。あり。第一。一。隊。は。
忍。田。官。出。陣。伊。藤。掃。部。少。一。柳。市。久。姫。尾。茂。助。倭。六。千。余。
騎。あり。二。隊。は。羅。多。峯。の。城。不。向。あり。二。番。は。陣。頭。安。丸。
右。衛。門。子。息。同。又。十。府。姫。久。太。郎。仙。石。禎。兵。衛。尉。羽。根。田。長。門。の

五千餘騎 岡安養守と導示うへく 龜山の城へ當進られ
 備二番ハ大将秀吉一万余の軍勢と二隊とるへく 先隊ハ
 長岡共一節 中川頼元將とるへく 明石共一節 大谷慶
 松本村小集人海。五千餘騎。這候の勇志不計幾と 教示安
 樂城より 亦發せ。これハ 續く 徳本勢一万余騎より 推し
 せん 後陣ハ 淡野孫兵衛長政 亦下 葛原由光 村降屋
 出羽守 依兵衛 小舟 武と 兼り 五千餘騎より 進發なり
 桑名と 當く 見る 修小 先隊ハ 退か 日市 命へ 到り されハ
 秀吉が 旗本ハ 神戸 白子 小陣と 取る 亦 東 寡と あり 多
 分小 着まる 術あり されハ 二万 又 六千の 勢あり 周く 隊ハ
 と 布と されハ 六七万 中も 着る 了ん 了 將の 境川 一 益も 這 河 伸

了 擊 敵 あり 備ハ 濃 曲と 攻め されハ 後 結の 憂と 除く せん
 日 這 方と 攻め せん 然も 其 墨 怖ること 久先 一 戦ハ
 退 敵 せん 我 勇 猛 氏 徹 知く せん 其 准 備 子 也 遠 び くる 備
 中ハ 龜 山 の 城 中 中ハ 堀 川 二 九 節 依 治 新 町 冥 祐 殿 海 兵 衛 宗
 孝 大 軍 遠 地 と 當り 推 進 する 其 後 伸 也 徳 より 也 懸 ぎ
 懸 ぐ こと 只 然 あり 予 顔 ぐ 期 ぐ する 事 され ども 斯 也 速 ぐ
 遠 家 らん せん 思 へ ざり 也 然 小 堂 城 小 勢 あり 也 防 戦 の 墨
 思 慮 あり こと 一 同 小 編 ぎ 起 と 関 大 内 義 也 事 あり 懸 ぐ 事
 緒 会 也 制 せん 防 禦 の 准 備 一 進 軍 遂 一 待 愈 あり 羽
 宗 方 へ 導 示 士 岡 安 養 守 と 先 隊 と あり 二 の 隊 小 へ 仙 石
 堀 尾 隆 傾 實 父 子 隊 兵 と 合 せん 面 門 背 門 双 方 一 度 小

賦し仰り鳥銃と撃連ね先各々竹束と突起く。講測
 迎く逼進する城の中も亦城と合せ守場堅固拒抗と
 ども進兵の大軍争々れ。暴兵と交代轉々易先陣後陣
 を繰返して。擧起く攻着けるも。城名今ハ甚か。外
 防壁を崩く逃退く。是ハ佐治副助ハ此極勢中守拵けん
 主をも技佐也。佐治副助ハ此極勢中守拵けん
 三九郎の孤人あり。自兵と率跟背門よりを竊走
 ける進兵ハ剛もる。三の丸と繋破り櫓二の丸と繋るん
 と減多攻小攻着ると関大内藏今ハ已必死究り防索を
 さんと佐治の練兵百餘人小令。大寨樓の左右より火突を
 一等小突刺す。是ハ勝驕る。上方勢も火突小囀びて乱起る
 時比こそ宜々れと。関大内藏。関風推開く。百餘人。殺常の

像る。憤聲と発。虎奮鵬激雷搏電馳。四角八面小斬て回走
 進兵もこれ。二陣易く。魁兵僕燈小見えける。洞根田
 長門守大小怒り。那量傲勢の城兵小。意蓋相自方の所化只
 一掃小残らむ撃と。正魁小餘と打振く。近づく敵と。擧散
 一方を救めく。戦不相と。瀧川三九郎視ると等しくあれ
 大内藏を撃す。兵輩。三九郎小續けと躍出ま。主小劣るか
 後。左と。鎗尖連並百有餘騎。真足小ありて。擧出。羽根
 田を撃んと。喚て。鬼を。仙石權兵衛。秀久。歩射立小。左と
 二の丸と。急投んと。か。け。執て返して。大太刀。智持。境
 川三九郎。小。操合。二交。三交。戦ひ。秀久。氣速。き。勇士。あ。れ
 ば。虚と。沈視。三九郎。が。騎。馬。の。警頭。と。鞆。一。弁。次。下。れ。が



仙石堀
蜂須賀脩

猛威と
振うと勢州
龜山の城と

陥む



馬ハ忽叱驛揚て。主を素願度うち墜をを。隙さば横去津捉
 て。歴へ左右かく首を搔頤とり。城久太郎秀改ハ滝川三九
 郎を行過し。まのや葛と騎投し。岡安藝守も引續て。
 接起く。諸方一夜。勢威結く。改着ら。鷹殿齋宮も
 遠を専途と防げども。いりて。城へらるべき。多勢乃
 中子捕ら。乱軍れうち。小殺倒しけり。斬とも知
 べ。岡大内藏奪命王の暴。くが像く。馬も人も米子
 傑て。右左と烈戦し。けまど。進兵れ。目惑ふ。な
 り。大軍あま。破るも。搦ども。退びこそ。増てや。勇上の
 名を得る。蜂須賀父子の隊中。あま。その。たげ
 きこと。幅火の像く。こま。とめ。改着られて。岡が。従率

垂く。戦死しけり。小大将大内蔵其身も。蔵名あり。ざね
 教箇所の。残し。俾身血。小傑く。太刀も。敵。あま。と。り。と。の
 少。も。屈せ。ん。進。敵。を。破。倒。し。苦。戦。し。け。り。と。蜂。須。賀
 又十郎宗正。敵の大將。泰ら。と。十文字の。陰。詫。長。子。捨。野。岡
 大内蔵。小。鶴。き。蒐。り。双。方。方。々。に。争。ひ。し。る。岡。の。敵。討。の。戦
 小。説。小。身。心。悩。乱。し。し。る。と。家。正。得。ら。り。と。搦。蒐。り。て。遂。小
 大内蔵。と。搦。止。り。這。隙。小。蜂。須。賀。長。右。衛。門。羽。根。田。長。子
 の。あ。將。の。諸。勢。を。駈。起。し。ち。や。も。本。丸。一。巻。込。り。ゆ。え。城。を。に
 方。小。散。乱。し。し。る。縮。る。軍。一。個。も。あ。り。て。龜。山。這。小。落。城
 し。た。れ。ば。堀。根。田。蜂。須。賀。休。所。比。本。陣。へ。進。進。し。し。る。始。し
 駛。率。な。方。ひ。く。其。ハ。岡。を。守。の。城。小。堅。守。る。滝。川。後。太。丈

益も秀吉が大軍直地這城小推進と駭駭駭防々
 準備を指揮し、匿くの守場々々、駛率と領位後を
 去るに、伊藤掃部助小川去佐守と先隊々々、黒田
 官公儀一柳市郎強尾茂助、六千騎と幕後小備、
 堀尾の先隊小加々んと馳名隊も亦く小川伊藤の城
 を迫くあるや、吾や城を發し鳥銃を放免、一時攻小
 破れんと、軍勢急小標記す。城中の身と射窓賊の毎達
 さる由、少一猶後とありけり。進路の直連、跨遠しと
 城石堀小掘着と。新川後太史、給益も、頗る智勇の大
 なる。些も屈せぬ儀と、工吏。謀計ある相不見せうけ
 暗号の如く、短銃と望揚。二之度翻く振動せぬ。射窓賊も

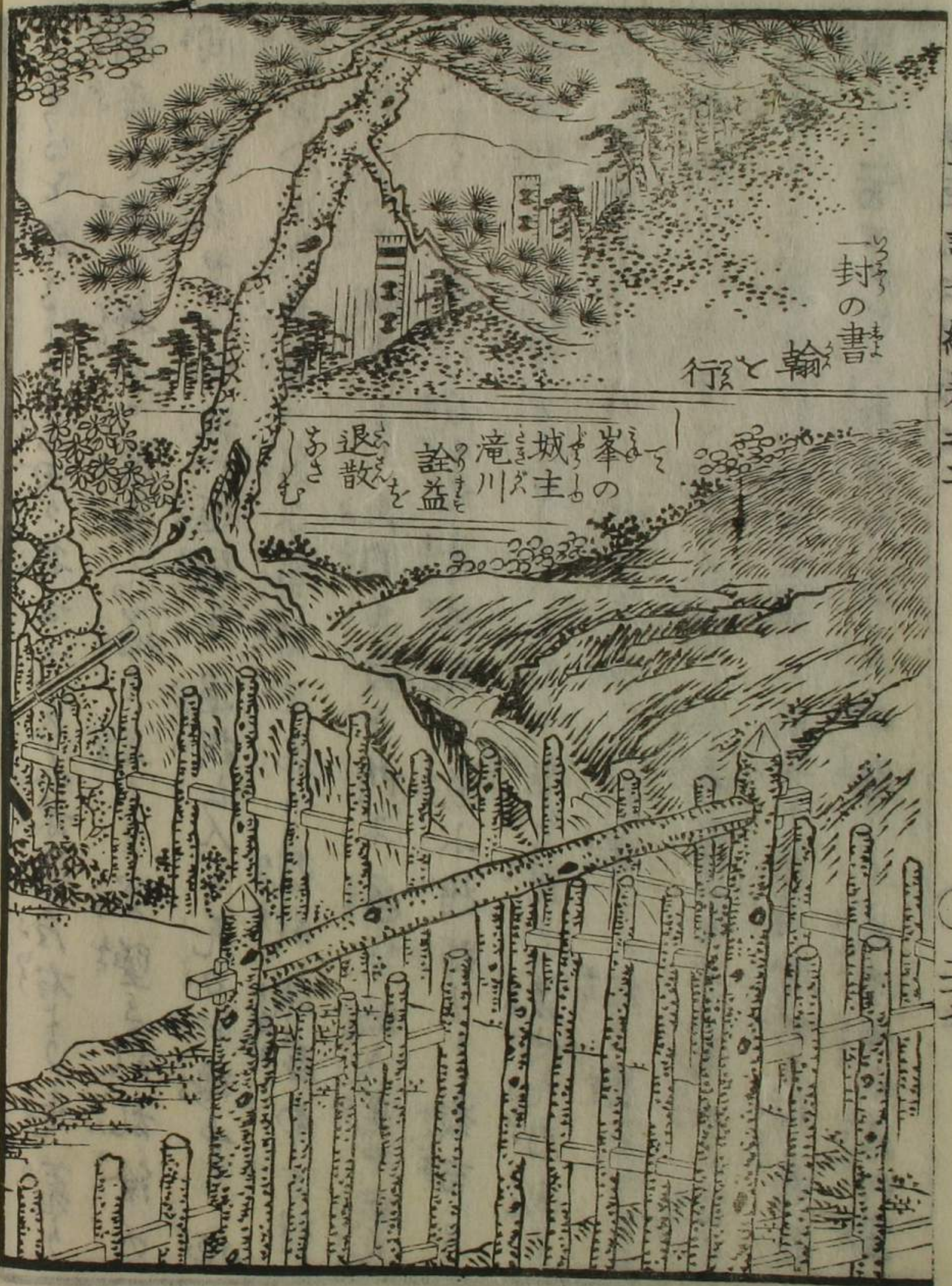
調至一、小や銃を柄並て一、角小葉烟烈しく、礮發しけま、
 不意を撃れく小川が兵士百四、五十人抜くこと、即城小
 溝へ、敵隊さまさ、り堀尾茂助の軍場小、熟練し、さる勇將な
 ま、早くも義太夫詮益が短銃を振る看るより、尙や奇
 兵の暗号なりぬ。訝し、さよと自勢を纏め、微し虎口を避
 る。跡もなく小川伊藤が兵士輩銃小當りて、深溝へ多く殺
 落しけるゆ、及、備いと蹊蹊を窺ふて、始く屯足せさせ、さり
 然る小義太夫詮益の謀計小も、何らさり、らど天り急な
 る防場あり、ゆ、及、即智をりつて、短銃を振、しが鳥銃めよ
 く、小當りて、奇計の如く看、ら、ら、計ら、次進兵を
 扼ぎ、崩走、蕙るを、上中より、宮地左内、こまを、視て、呼、意味よ

滝川義大夫
速智小庵と
揺る
要時
進兵と疑



や敵兵の撃倒さして懐燈なるぞ臆病神の難まぬうち退
 散まべしといふ俣小圓風を周いて突発せばこれ小續路
 て白子六郎左衛門兩隊の兵士四百餘騎咄と習て駈出と
 り堀尾吉晴これを見て俣小圓を左右小周らせ白子室
 地り蛇行小来ると羽翼小受て一個も餘さば劔小せよと
 乱殺しけるを後陣の黒四一柳も堀尾小劣らと怯むは
 と一隊小をりて獨起吹伏綱烟立て戦り中も堀尾は
 城兵の後路小逃西て突崩さんと俣小標でぞ攻起るを捕
 囲まての候をトと宮地左内へ逸速く自勢を纏めて退り
 んとまれども白子六郎左衛門の數箇口の疾を彼りかゝ挿
 も怯まず戦ふ所ありけり為けん騎る馬。物小張さ弾揚るを騎鎮人

とまると視るより馬田が兵士十四人前後左右より走菟り。
 柳登を流の拂ふ際あり。遂に馬より突墜され乱槍の
 間小戦死せり。宮地へ這降し退投らんと死力と振る拒
 抗戦つとも。對敵の名小負堀尾あり。烈戦陳虐あゝと
 自名の大才戦死し。左内も殺り所小痛と被り。免や戦死
 すくし。滝川儀を免。青地頼母急小指揮し。數百乃
 決地烈し。乱發せさせ。これ小氣と得る。宮地左内漸く
 退不逃投り。進兵も吐炮小遮へられ。斯く破り果をまよと
 退探吹せし。諸勢と退る。姑く休息あさせし。破れ不當天
 も暮々も。城中あり今日の軍小白子が戦死宮地が被疾使
 年も二百回入十人戦死せし。氣怖膝し。夜中潜り落行軍



一封の書

行と翰

峯の城主の滝川益詮の退散

二に百人及びびられ。義を交り今い力を減し。青地と借し高
 嶺しと各眉と繋りける。然るに進兵の陣中しとる。田
 姫尾一押候。明日の軍機をる。居るころ。秀吉卿乃
 命と奉り。浅野赤松法入来せり。諸將長政と近客。命令
 いりゆと訊ねられ。赤松法入君の命と渡す。討敵は遠く如
 あり。收行しと。其准佑を。一封の書と記書て。馳率を
 檣。城門へ這書と齎し遣し。騎率の陣將の指揮の如
 く。面門の圓風ふ歩進。声響らうた。これに大將羽柴秀吉公
 よ。當城將へ書簡と送らる。疾く收寄し。控柄
 強く嚙もせける。开も這方御。今這書簡と容易收寄の
 あら。城中虚あり。隘やもきあり。倘憤怒し。送返しあは

兵士実子。必死と究り。軍機を。急ふこと。虚実を
 察量。城らん。斯へ料理つるものあり。然るに城中。兵集
 かり。贈り。書翰を。收寄るるゆゑ。使走の。馳率を。返りて。
 這敵を。告げる。諸將各。喜びあり。備へ。這城。今敵の
 うち。退去せん。疑ひあり。情子と。行り。窺を。せし。う。
 然るに。龍川。儀太。丈の。敵將。よりの。書簡を。得る。危事。あり。
 と。聞聞。不。至。將。赤松。左。邊。將。監。昨日。一。戦。不。敗。北。あり。長
 崎。城。へ。退。去。畢。ぬ。本。城。全。く。無。勢。の。ころ。一。益。が。危。急。且。重。
 不。あり。各。這。地。の。軍。機。を。皆。無。量。の。次。手。ある。べ。され。し。を。こ
 長。崎。へ。退。城。せ。れ。至。後。一。所。不。忠。義。あり。武士。の本。意
 あり。し。を。この。を。一。理。義。を。中。し。記。書。ける。ゆゑ。儀。太。丈。叙。め

